

<感想> 私は京土会の学生・若手会員研修助成を受け、ウズベキスタン共和国のサマルカンドで開催された、4th Central Asian Geotechnical Symposium に参加、研究発表を行いました。このシンポジウムは文化遺産および史跡の建設・保全における地盤工学を主題としたものであり、対象とする構造物の外面的特徴はもちろん当時の工法といった歴史的側面をも尊重しなければならないなど、通常の土木構造物とは少し異なった視点での議論が大変刺激的でした。こうした学会の中での学び以外にもウズベキスタン国内各地に点在する世界遺産群を見学する機会があり、長い時を超えてもなお現存するその姿には心震わせれるものがありました。

その他現地で日常生活を送る中で、しばしば起こる停電、整備しきれていない道路、そしてそのままでは飲めない水（実際に私もお腹を下しました。）などを目の当たりにして、日本国内では当然のように提供されている社会インフラとそれを支える土木技術の重要性を実感するとともに、将来技術者としてしっかりと貢献するためにより一層勉学に励もうと決意を新たにすることができました。

最後となりましたが、今回の大変実りある出張のご支援をいただいた京土会および会員の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。